

2026年3月18日

国立大学法人筑波大学

## 学生×地域×企業がつながる施設「未来社会デザイン棟」誕生

～学生が中心となって運営する新たな共創拠点～

筑波大学では、学生が地域社会や企業と日常的に交流できる新たな拠点「未来社会デザイン棟」をオープンしました。

床面積5,270平方メートル、3階建ての施設内には、最大300人収容するイベントホールがあり、発表会や企業のイベント、フリーマーケットなど多用途で利用できます。企業が入居できる共同研究スペースを3階に設け、学生にとっては、企業の担当者と直接コミュニケーションを取りながら、学生自身の研究や将来のキャリアについて考えるヒントを得られ、企業側にとっても、若い世代の柔軟な発想や価値観に触れ、新しい事業や研究に反映することができる空間となります。シェアオフィスや会議室など、これまでにない大学内外と人々と協働できる、新たなハブ施設となることを目指しています。

サッカーコートのおよそ4分の3の広さの3階建てのこの施設には、様々な用途で使えるイベントホールの他にも、人々が自由に集まって議論できるグループワークスペースや、自主学習スペース、3Dプリンターなどの設備もあるクリエイションスペースなども整備されています。また、学外の方が使えるシェアオフィスや会議室などもあり、大学の内外が協働できるハブ施設として機能します。

企画段階から運営に至るまで学生が主体的に関わっている点が、この施設の大きな特徴です。現在は17名の学生を含む事業推進チームが中心となって活動しており、週1回のミーティングを通じて施設の利用ルールを検討や、イベントの企画提案、また5月の開所式に向けた準備にも取り組んでいます。

未来社会デザイン棟を通じて企業が学生と継続的に関わることは、リクルーティングやインターンシップの機会にもつながります。こうした出会いや対話が生まれやすい環境であることも、この施設の大きな魅力です。

本施設は、施設整備費補助金、目的積立金と2022年に筑波大学が発行した社会的価値創造債を財源として整備されました。その償還と施設の持続的な運営のため、いくつかの収益事業を行っています。共同研究スペースに入居する企業からのオフィス利用料に加え、イベントホールや会議室、シェアオフィスを学外の方に貸し出すことで利用料収入を得ています。これらの仕組みによって、施設運営を継続できる体制を構築しています。

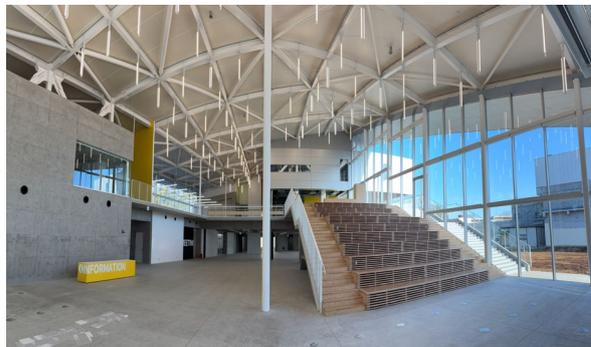
【施設概要】

- (1) 所在地 つくば市天久保2丁目1-1
- (2) 階層・構造 鉄骨造 3階建て
- (3) 延床面積 5,270 m<sup>2</sup>

2026年2月竣工 未来社会デザイン棟 (Future Society Design Complex)



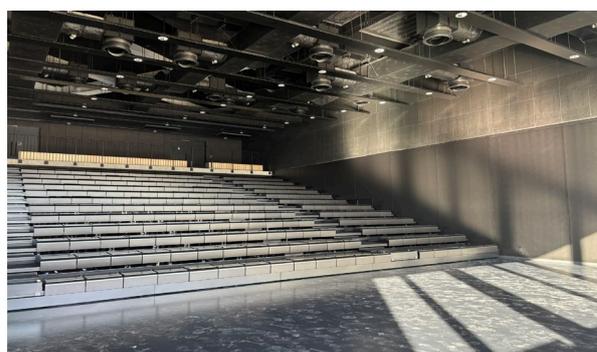
(外観)



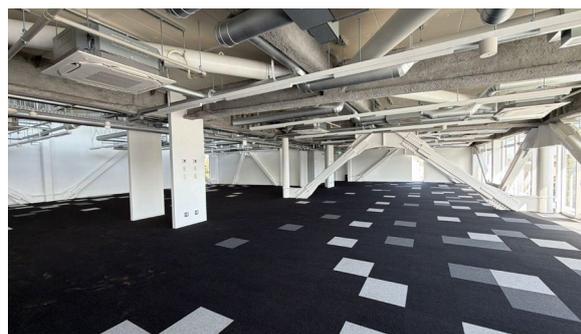
(大階段)



(会議室)



(イベントホール)



(共同研究スペース)

【本件のお問合せ先】

筑波大学広報局報道担当

E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp